

第1回 網走川・常呂川・湧別川・渚滑川 減災対策協議会 議事概要

日時：平成28年4月26日（火）11:00～12:15

会場：網走市民会館 3階 大ホール

構成員：網走開発建設部長、網走地方気象台長、

オホーツク総合振興局長（代理出席）、網走市長（代理出席）、
北見市長（代理出席）、紋別市長（代理出席）、美幌町長、津別町長、
大空町長、訓子府町長（代理出席）、置戸町長、遠軽町長（代理出席）、
湧別町長（代理出席）、その他関係機関（警察・消防・自衛隊・北電）

《議事内容》

- ① 「水防災意識社会 再構築ビジョン」の取り組みについて
- ② 減災対策協議会の趣旨について
- ③ 各河川（4水系）の減災協議会規約について
- ④ 現状の水害リスク情報や取組状況について
- ⑤ 新たなステージに対応した防災気象情報の情報提供について（気象台情報提供）
 - ・新たなステージに対応した防災気象情報の情報提供について
- ⑥ 減災のための目標等について
 - ・5年間で達成すべき目標および目標達成に向けた”3本柱”の確認
- ⑦ 今後のスケジュール確認
 - ・幹事会を2回程度開催の上、避難、水防、排水活動等、今後5年間を目処に取り組む「地域の取組方針」を次回協議会で策定することを確認
 - ・その後「取組方針」に基づく実施状況等はフォローアップを実施することを確認

《首長からの主な意見》

（大空町）

- ・洪水が起きると網走湖は高い水位が長時間継続するため、堤防等河川管理施設の強化はもとより、網走湖（本郷地区）の水防資機材の拡充が必要である。
- ・網走湖に排水する排水機場（2基）は農業施設であるが、より効果的な運用を図るための方策を考えていく必要がある。

（美幌町）

- ・水防の強化も必要と考えているが、抜本的な治水対策についても推進してほしい。
- ・各地区の避難所や備蓄基地に、資機材等が保管されているが、いざ災害が起きたときに、照明器具の不備や資材の不足などの問題も起きているのが実態であることから、広域的な資機材の調査や把握が必要。

- ・町民が「警戒心をもつような」気象情報提供をお願いしたい。

(置戸町)

- ・具体的な目標を設定するにあたって、局部的豪雨などの近年の気象状況を勘案し、各市町でどう対応していくかが課題である。
- ・設定された具体的な取組内容について、町民に明示して理解してもらうことが重要である。
- ・下流の人々はダムに過大な期待を寄せているため、流域住民に対して、ダムの機能や意味を正しく理解してもらうことも大切である。水防の強化も必要と考えているが、抜本的な治水対策についても推進してほしい。